

# 2012年

## 安全・安定輸送確立と 労働条件改善に 全力をあげよう!



組合員の購読料は  
組合費に含まれます

荒川区西日暮里2-55-1  
国鉄労働組合東京地方本部  
発行責任者 鎌田博一  
編集責任者 常盤達雄

No.1742 定価  
15円

2012年  
1月5日

### 国労東京スキー大会 2/20、21開催 越後湯沢

組合員・家族の皆さん、新年あけましておめでとございます。年頭にあたり、地方本部を代表し挨拶を申し上げます。

二四年にも及ぶJR不採用問題は、昨年開催した第八〇回定期全国大会において、最終的に闘争団・家族の皆さんの苦渋の選択、決断の中で闘争の終結を組織として確認しました。この長い歳月は、取り戻すことのできない大きな痛手を残しましたが、闘争団員・家族は、最後まで国労として歩み続けた誇りを胸に刻みながら、前途を見据え、人生の再出発を図っています。私たちは、改めて闘争団員や家族のこうした思いや気持ちをしっかりと受け止め、さらなる運動の前進に向け、奮闘しなければなりません。



### 組織拡大が最重要課題 執行委員長 鎌田博一

はじめに、組織強化・拡大の取り組みです。地方本部は、昨年の地方大会まで九名の仲間を国労へ迎え入れることができました。平成採用者からエルダー社員、さらには、グリーンスタッフ社員に至るまで幅広い年齢層、雇用形態の仲間が復帰・加入を決意しています。

とりわけ、神奈川県地区本部において新規採用者が加入したことは、多くの仲間にも勇気を与え、自信を持った呼びかけと日常的な人間関係が結果に結びついてきたことを教訓とし、新橋支部におけるグリーンスタッフ社員の加入は、非正規雇用労働者の労働条件改善を私たちが国労に期待することの現れであり、取り組みの正しさを実証するものだと考えます。

苦悩しながらも、私たち国労が職場の中心に座り、仲間の信頼を得ること。職場の中の小さな声にも耳を傾ける世話役活動や職場の問題点を改善する取り組みなど、分会運動を活性化させ、組織的な対応で大胆に加入を呼びかけ、すべての職場から組織拡大に向けた運動の前進を図っていききたいと思います。

次に、安全・安定輸送の確立と職場労働条件改善の取り組みです。

安全・安定輸送と企業のコンプライアンスの確立は表裏一体のものであり、信頼を回復するためにもコンプライアンス経営の推進、地域との共生など、JR会社には惜しみない努力が求められています。私たちは、「安全が最優先される」企業文化の定着と合わせ、安全を確保していく上で労働組合の役割と任務が極めて重要と

内四支社で駅社員の二〇%にせまってきたおり、無くてはならない存在になっていきます。しかし現制度では、ノウハウや技術を習得しても試験に合格しなければ雇止めが発生する大きな問題があります。私たちは、社員化を基本に雇用と待遇改善を今以上に求めていかなければなりません。

次に、反原発をはじめとする平和と民主主義を守る取り組みです。東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故からまもなく一年を迎えますが、事故の実態も収束もいまだに途がたないなどより深刻度を増しています。一日も早い被災地の復旧・復興支援と被災者に対する補償問題、社会保障とセーフティネットの回復、鉄道・道路等のインフラ復興と都市計画の具体化など、公共交通の活性化や地域再生と合わせた取り組みが強く求められています。原発に依存する社会から、再生可能な自然エネルギーへの転換をめざし、広範な仲間とともにあらゆる取り組みの構築を図らなければなりません。

労働者・国民に還元し、内需拡大への政策転換、労働者派遣法の抜本的改正による雇用の安定と賃金の底上げ、TPP参加問題や消費税増税反対、安心して暮らせる医療・年金等社会保障制度の改正・拡充、反核・反原発・平和と民主主義を守る闘いなど国民的課題と結合した取り組みになることは明らかです。

地方本部としても、職場からの春闘再生と地域春闘のさらなる強化に向け、全力を上げていきたいと思っております。

当面する諸課題の実現に向け、組合員・家族の皆さんの先頭に立つ決意を申し上げます。二〇一二年新年の挨拶とします。

### 春風献上 国鉄労働組合東京地方本部

執行委員長	鎌田 博一
執行副委員長	稲荷 靖
書記長	松川 聡
財政部長	田中 克幸
組織部長	宮崎 浩則
調査部長	海老原 悟
教宣部長	常盤 達雄
政治部長	中澤 和夫
福対部長	山田 博樹
法対部長	恒本 肇
執行委員	横倉 一夫
執行委員	岡野 嘉明
青年部長	松尾 郁弥
婦人部長	阿部美津子
会計監査員	広瀬 裕二
書記局	谷川 春男
〃	岡田直之
〃	新井 清一
〃	佐藤 誠
〃	井口 栄子
〃	小川美智子
【アベニール(株)東京営業所】	
社員	市村 和子
【国労議員団】	
団長	佐藤 洋二
【国労家族会東京地連】	
会長	丸山みどり
【鉄道退職者会】	
会長	羽切 信夫



国労自動車支部は十二月八日十一時より、地本大会議室において第六八回自動車支部定期大会を開催した。

生方副委員長の開会の挨拶・大会成立宣言(構成員・傍聴を含め組織人員の四分の三の組合員が参加)があり、続いて議長に小諸分会から柳沢秀樹委員が選出された。

丸山執行委員長挨拶では「JR不採用問題の採用を求める闘いの経過報告、東日本大震災で東北自動車の組合員が避難生活をおくっている。バス会社の現状と働く労働者の現状報告として、組織拡大は支部にとって緊急の課題になっている。組織拡大を今大会の最重要課題として今大会を開催していきたい。」と今大会の成功に向けた報告と提起が行われた。

来賓として東京地本松川書記長から「二四年間の闘いを総括し、新たな闘いを作り上げていかなければならない。組織拡大は重要課題である。拡大の意義をとらえて一丸となって取り組んでいきたい。賃金制度について交渉が再開された。改善交渉を続けていきたい。春闘の取り組みについて」などの報告と今後の闘いについて挨拶をいただいた。

国労闘争団の寺内東京闘争団副団長からは「現状報告とこれまでの闘いのお礼」を含めた挨拶をいただいた。

経過・決算報告に続き唐澤書記長から運動方針案が提起され、代議員から職場の現状や労働条件など報告、問題点を含んで「重大事故が発生しているが安全と再発防止の取り組み強化」「助勤という形をとった一日間連続勤務に改善」「組合員の高齢化と組織拡大の取り組み」など多くの意見が出され、熱い議論が交わされた。

唐澤書記長から集約が行われ、「各職場から労働条件の改善の要求・闘いを作り上げていってもらいたい」「我々の要求を実現していくためには組織拡大も急務な課題として取り組んで行かなければならない」「昇進試験に和解除初めての合格者がでた、全組合員で差別を無くすためにも取り組んでもらいたい」等、集約され運動方針が満場一致で承認された。

支部執行部体制は昨年同様、丸山執行委員長のもと、生方副委員長・唐澤書記長・渡、丸山(純)、唐澤(恒)、石井の各

# 各支部で大会開催

## 自動車支部

国労大井工場支部車体科分会は、東京総合車両センター車体科の現職社員一五名(専従休職一名含む)及びエルダー社員六名で組織しています。車両修繕のため入場してきた車両を車体と台車に分離する作業から、車体修繕場に搬送する作業、車体の神経(配線)や動脈(配管)部分の修繕、室内機装・運転室内の機器類修繕など、車体に関する全般を扱っています。新規採用者も多く配属され、ベテラン作業者の多い国労組合員は、若い社員たちに技術継承しています。

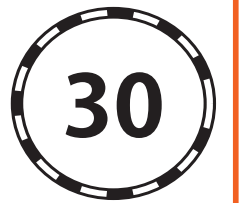
分会活動は、本部役員を含め、多くの活動家を擁していますが、一方で、現役の分会三役が順番に配転させられたり、支部三役を担う仲間がセンター内の異動で分会を離れたりと、と苦しい状況が続いています。昨年には他労組からの国労復帰もあり、組織拡大に向けて力を集中していこうという機運もたかまっています。(復帰した仲間ははるばる岡山の仲間からの配布などもいただき、本場に恐縮していました。)

全国の仲間の皆さん有難うございました。

執行委員が承認され、最後に丸山委員長の「団結ガンバロー」で閉会した。

中央支部は一月一九日に、第二五回定期大会を新宿ビルにおいて開催した。大会議長には山田代議員(東工所)を選出し、波能委員長からは①不採用問題は②三・一一震災・原発問題③野田政権の危なさ④JAL問題⑤JR内の職場問題(事故・GS・エルダー・千葉レールセンターの支部移管・組織拡大など)のあいさつを受け、来賓(社民党・共産党・新社会党・西部全労協・区労連・JAL共闘・東京闘争団・旭川闘争団)と上部機関の稲荷地本副委員長の激励・情勢報告の挨拶がされた。代議員一〇名から発言があり、職場の労働

### 連載企画 分会紹介



# 車体科分会



## 中央支部

東日本大震災では、センター内に大きな被害は出ませんでした。改めて自分たちが働く職場は安全なのか、不安全作業はないか、しっかりと点検する事が大切であると痛感しました。分会組合員の丸一となった力で、今後も頑張っていきます。

労働条件の切下げや昇進昇格試験の差別、震災・大雨時の派遣、エルダーの運用・職場の実態と問題点、支部雇用の書記、T P P など職場実態や幅広い活動・状況や頑張りなどが報告された。

書記長集約後、役員改選、スト権一票投票が行なわれ、団結頑張りうで大会が終了した。

**国労加入**  
呼びかけポスター  
**募集中**  
A4サイズ  
1月末まで

### 「がん」の保障 《生きるためのがん保険Days(デイズ)》

スタンダードプラン 入院給付金日額 10,000円の場合

初めに診断確定されたとき	診断給付金	がんの場合 上皮内新生物の場合	一時金として 100万円 一時金として 10万円
入院したとき	入院給付金	1日につき	10,000円
通院したとき	通院給付金	1日につき	10,000円
手術したとき	手術治療給付金	1回につき	20万円
放射線治療を受けたとき	放射線治療給付金	1回につき	20万円
抗がん剤治療を受けたとき (上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金	抗がん剤治療を受けた月ごとに 乳がん・前立腺がんのホルモン療法の場合 (すべての保険期間を通じ通算600万円まで)	1カ月 10万円 1カ月 5万円

プレミアムサポート 訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社法研が提供するサービスです)

【引受保険会社】 アフラック東京第三法人営業部  
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル  
当社保険に関するお問い合わせ、各種お手続き  
コールセンター **0120-5555-95**

【募集代理店】 **アベニール株式会社**  
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3F  
電話 **03-3437-6810** ファックス **03-3437-6822**

### 「生きる」を創る。Aflac

◆月払保険料(団体取扱) (2011年4月1日現在)

生きるためのがん保険 DAYS(デイズ) スタンダードプラン  
入院給付金日額 10,000円 定額タイプ  
保険料払込期間: 終身(抗がん剤治療特約は10年更新)

	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	3,656円	5,608円	9,350円	15,190円
女性	3,734円	5,274円	6,864円	9,048円

〈抗がん剤治療特約〉の更新後の保険料は更新時の年齢・保険料率によって決まります。

【取りまとめ先】 **アベニール株式会社 東京営業所**  
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-55-1 国労東京地方本部内  
JR電話 **054-2548** ファックス **03-3806-9275**  
電話 **03-3806-9264**

©詳しくは、パンフレット(契約概要)をご覧ください。 AF007-2011-0186 4月25日